

商業高校出身だった私は二十五歳のとき、職業会計人になるために大阪経済大学の夜間部に入学し、そこで一生の恩師、当時、二十代の松本剛先生に巡り合いました。

先生から入学目的を問われ、「国家試験の受験です」と答えるところ、「大学は学問をすることだから、受験勉強だったら専門学校へ行けばよい」とのご意見でした。

一回生では、講義終了後、会計学研究部の部室で、馬場克三著『減価償却論』をテキストに「会計学基礎理論を批判的に学べ」と教わり、書物の読み方、論文の作成方法についても厳しく指導を受けました。また、ノートの取り方ではレーニンの『国家論ノート』を示され、大いに参考になりました。

学問とはこのように学ぶのかと思いつつも、こんな状態では受験勉強ができないと、退部する旨のお手紙を差し上げたところ、「今は私から離れてはいけな」と叱咤しつたされました。

このご縁が私の血となり肉となつて、今日に活かされています。

## My Unforgettable Mentors

# 我が師の恩

税理士法人マークス  
代表社員

**植村祐三**

Text by Yuzo Uemura

会計事務所開業直後の生活を心配して、ご紹介くださった大学講師の仕事を手先に四年間で退職し、ひんしゆく響ひんしゆく響を買ったこともありましたが、家内とのご縁も結んでいたできました。

松本先生は、年齢も近かったので一杯飲んだこともあり、そんなときの口癖は「ゆっくりやろう」でしたが、若くしてがんに侵され、平成五年に他界されました。

あるときは恩師、あるときは友人・兄弟のように接していただき、いつまでも心から消えることのない恩師です。